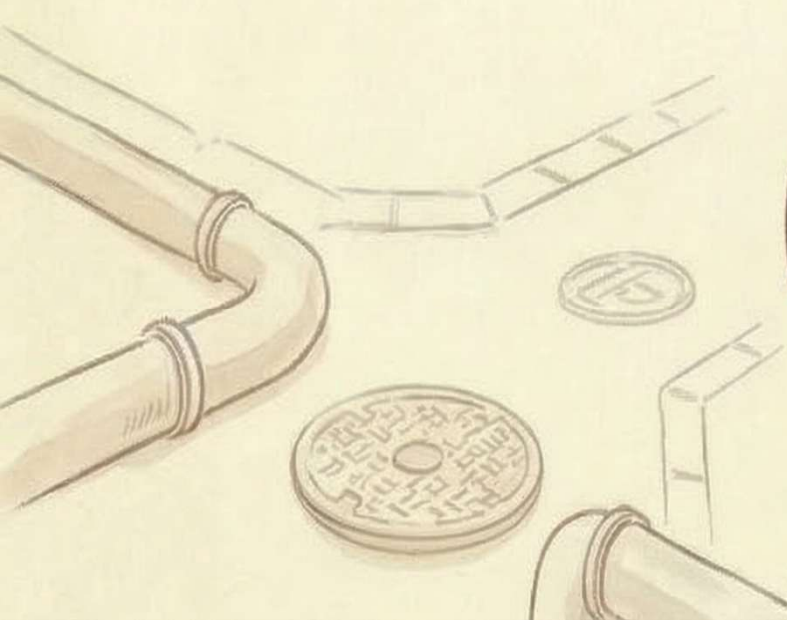
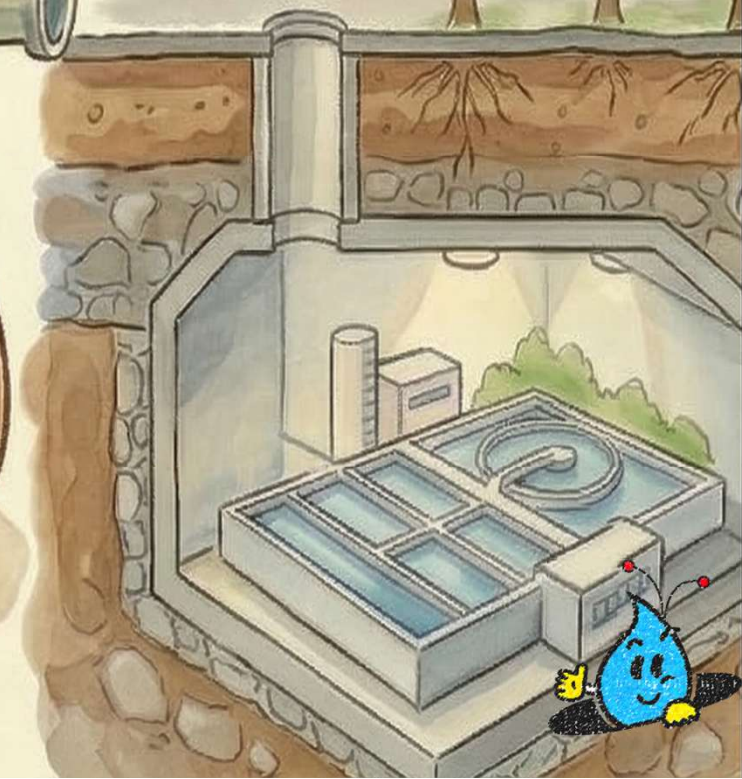
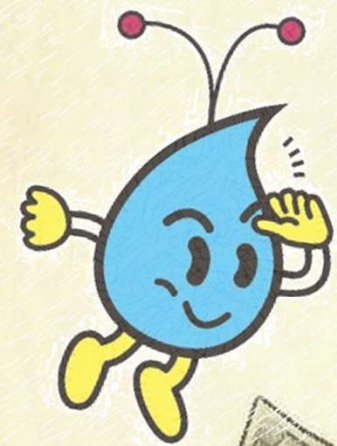


下水道のおサイフ

～下水道事業の財政状況～



目次

1 下水道事業会計とは

2 下水道事業の財政構造

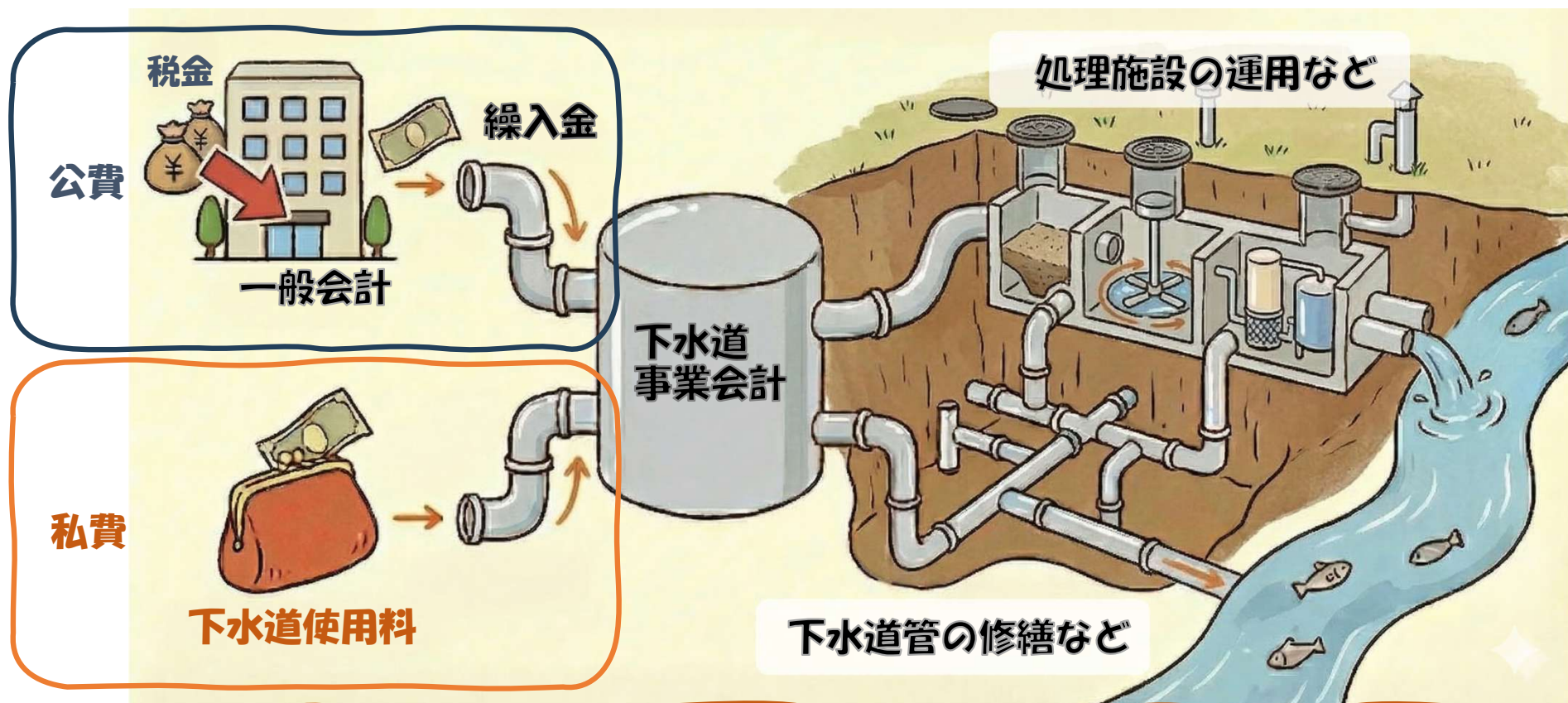
3 下水道事業会計の現状

4 下水道事業会計の今後



1 下水道事業会計とは

札幌市の下水道事業は、皆さまの生活に必要な下水道サービスを継続的に提供するため、一般会計から独立した「**公営企業**」として運営しています。



■下水道使用料収入などによって経費をまかなう「**独立採算**」による経営。

■下水道事業に係る経費の負担区分は「**雨水公費・汚水私費**」が原則。

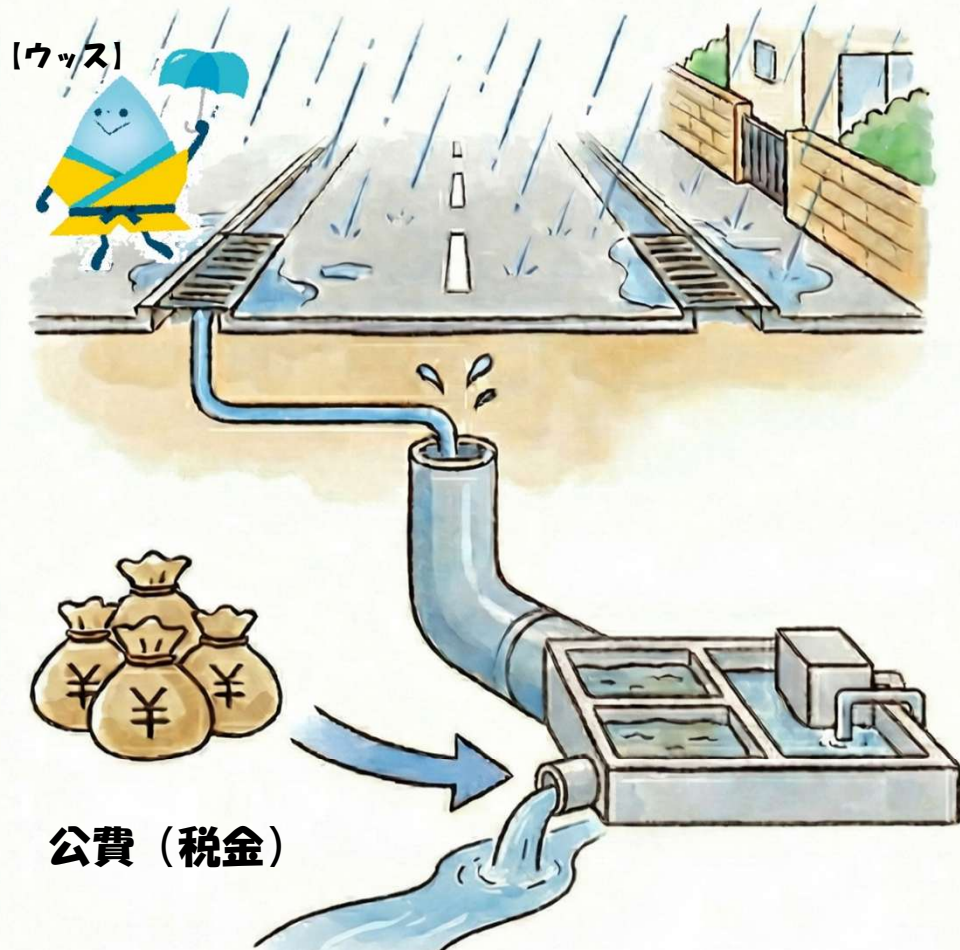
「**雨水**」は自然現象であり、浸水から街を守るなど広く公益につながるものなので、「**公費 = 税金**」を充てる。

「**汚水**」は使用者の日常生活や生産活動によって生じるものなので、「**私費 = 下水道使用料**」を充てる。

1 下水道事業会計とは

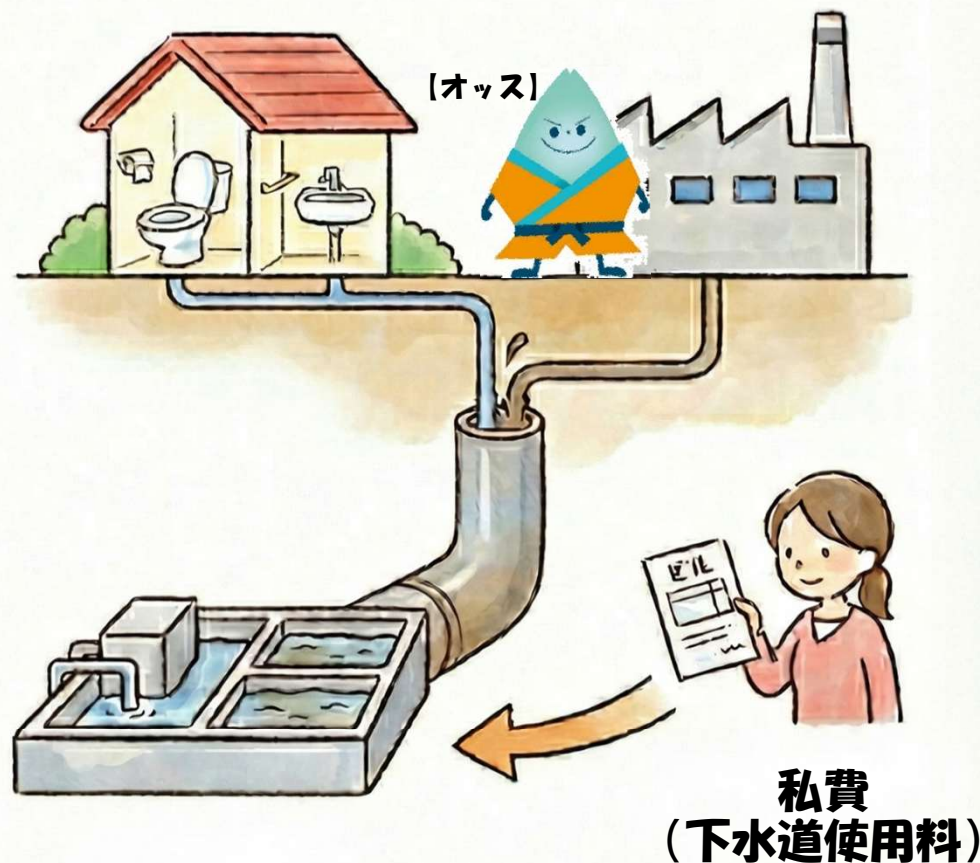
雨水公費・汚水私費の原則

雨水（公費負担）

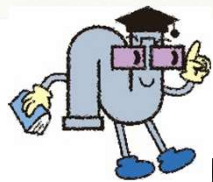


雨水処理に係る費用は公費（税金）で賄われます

汚水（私費負担）



汚水処理に係る費用は使用者が負担します

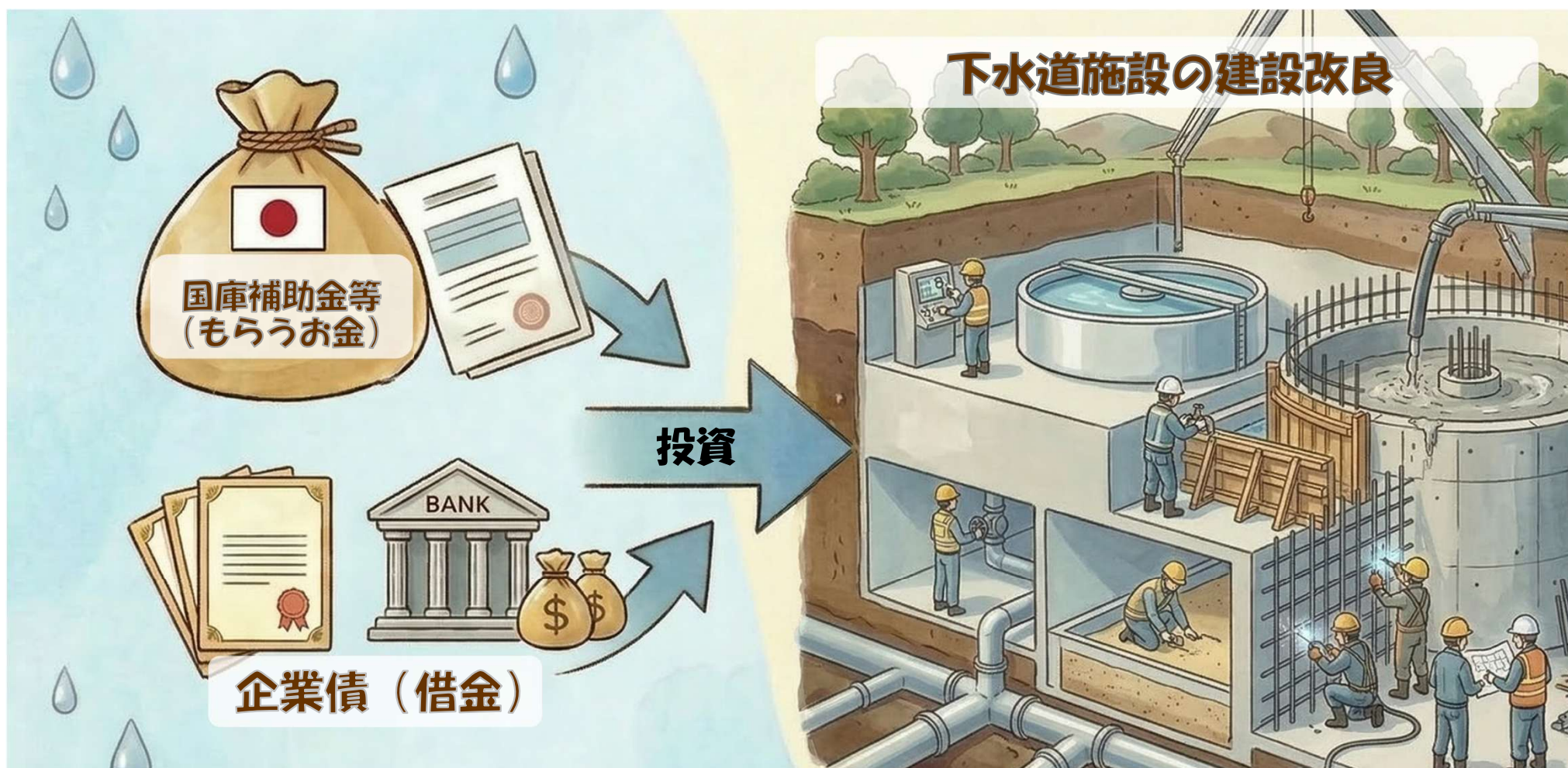


[ドクターパイプ]

汚水を処理するのにかけた費用を下水道使用料でどれだけ賄えているかを表す指標を「経費回収率」といい、100%を上回る（賄えている）ことが求められます。

2 下水道事業の財政構造

下水道事業を行うためには、下水道施設の建設改良(投資)が必要です。
この財源は、主に**国庫補助金等 (もらうお金)**と**企業債 (借金)**で賄います。



2 下水道事業の財政構造

どうして借金するの？

下水道施設の建設改良には多額のお金がかかるため、自己資金などで一度に全額を支払ってしまうと、その他の業務に必要なお金が不足してしまいます。
また、下水道施設は、**長期に渡って市民の皆さまに使用いただく施設**であることから、整備時に企業債を借り入れ、一定期間をかけて返済していくことで、**将来の使用者にも公平に費用負担**していただくようにしています。

一括払いの場合

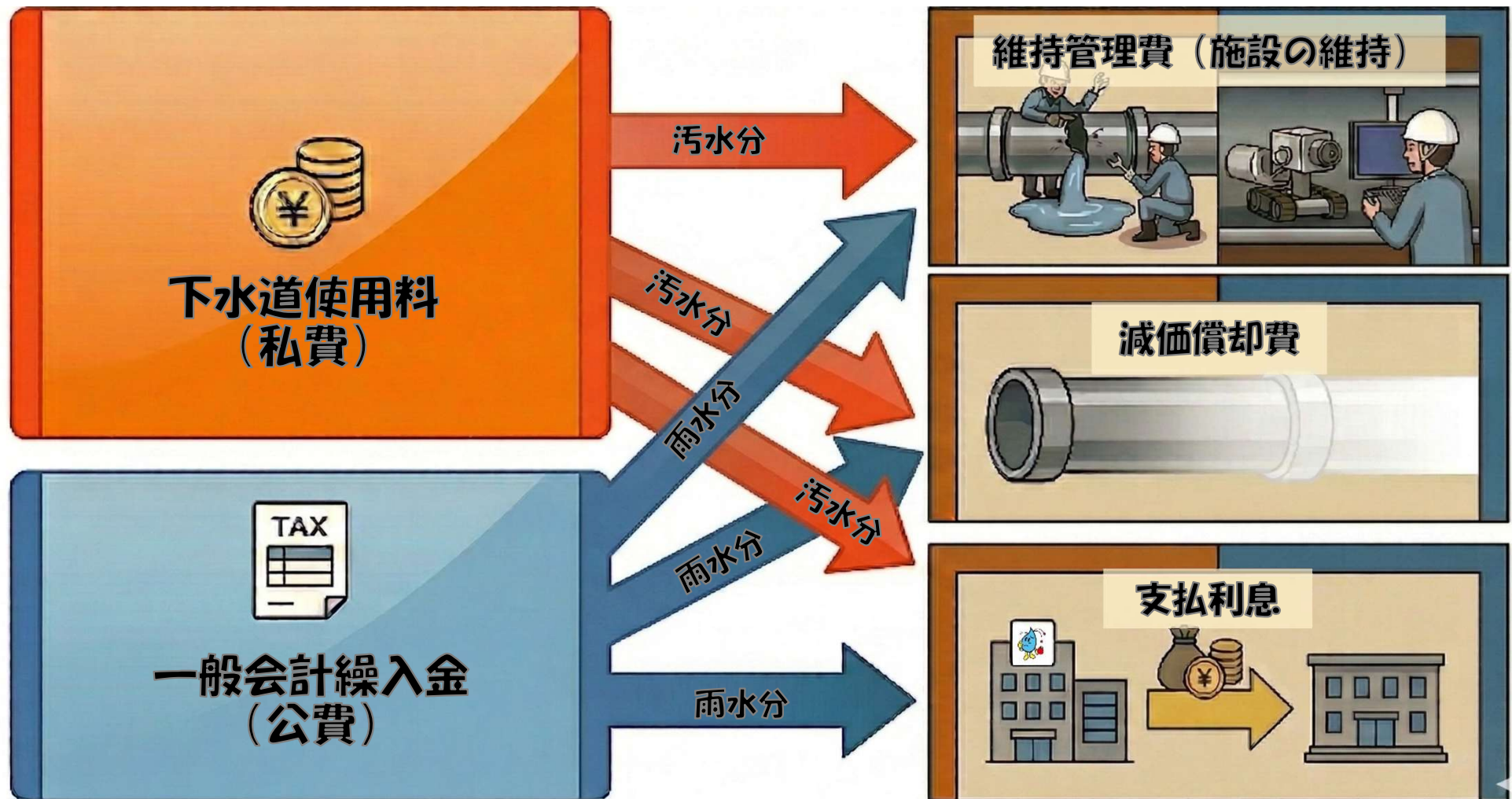


企業債を利用する場合



2 下水道事業の財政構造

下水道事業の運営に伴って発生する**維持管理費**や**減価償却費**、**企業債の支払利息**は、**下水道使用料**と**一般会計繰入金（税金）**で賄います。

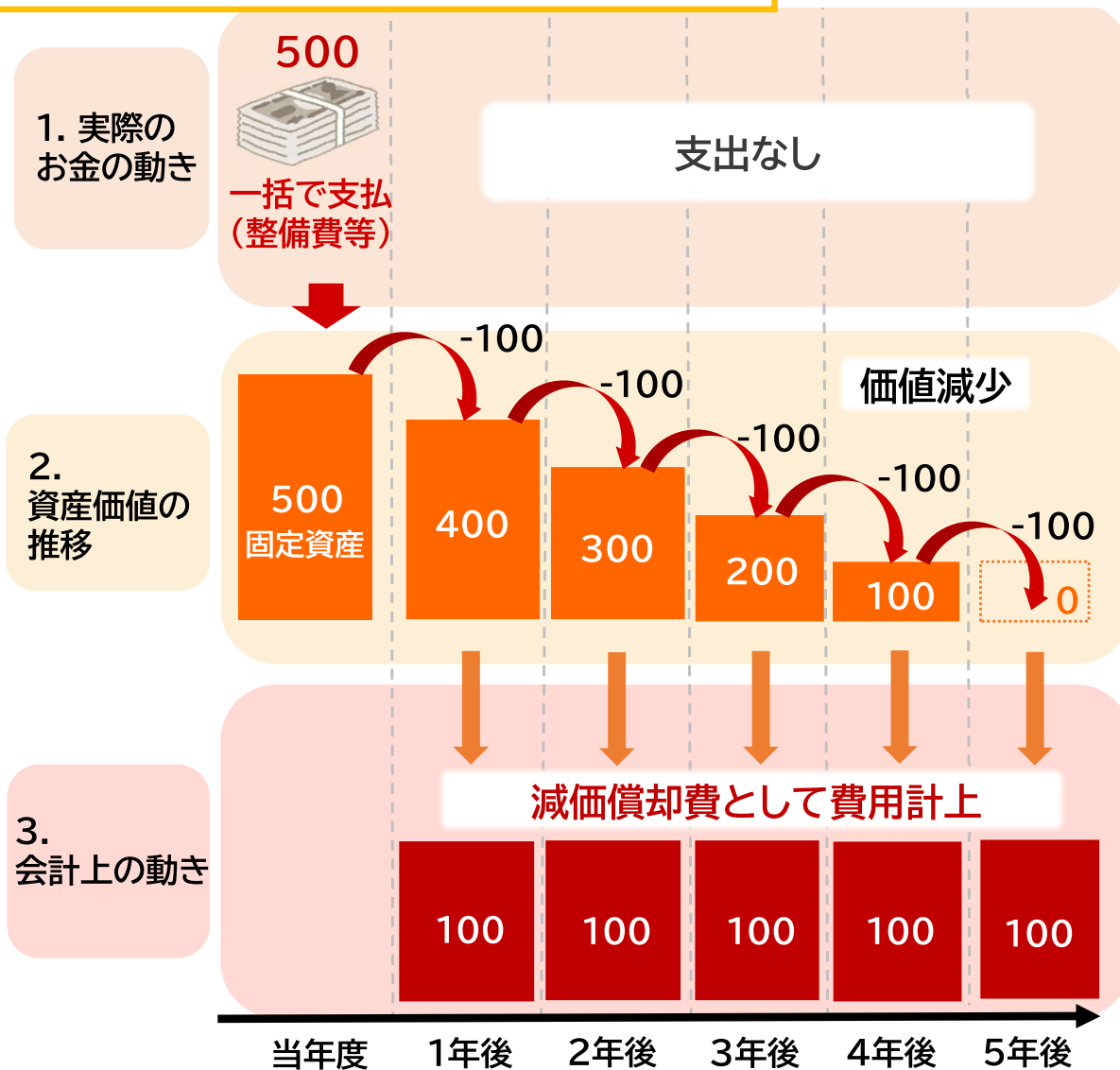


2 下水道事業の財政構造

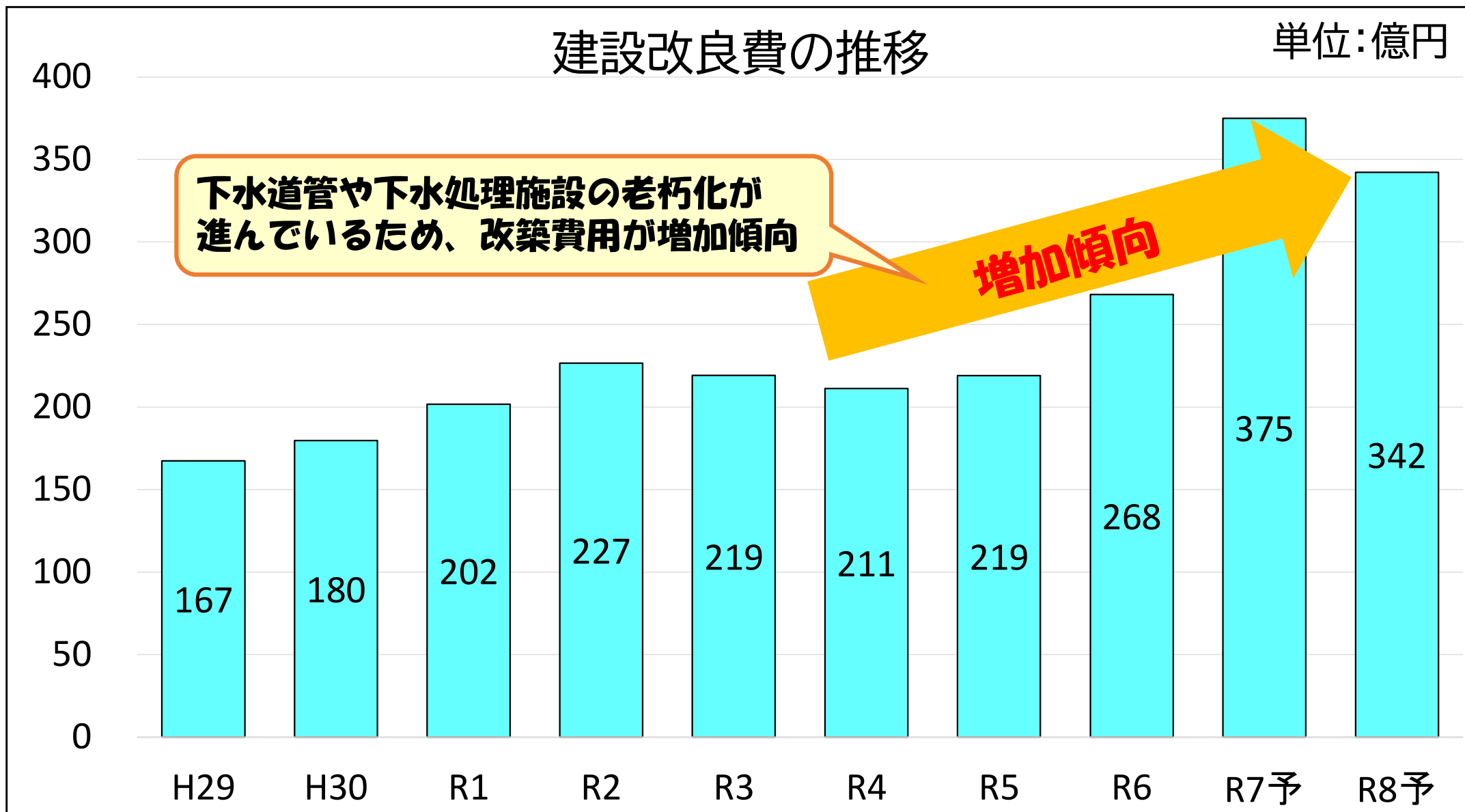
減価償却費ってなに？

下水道管や建物などの資産は、時の経過などによって価値が減っていきます。この資産の取得に要した費用を、資産の使用可能期間に分割して計上することを**減価償却費**といいます。

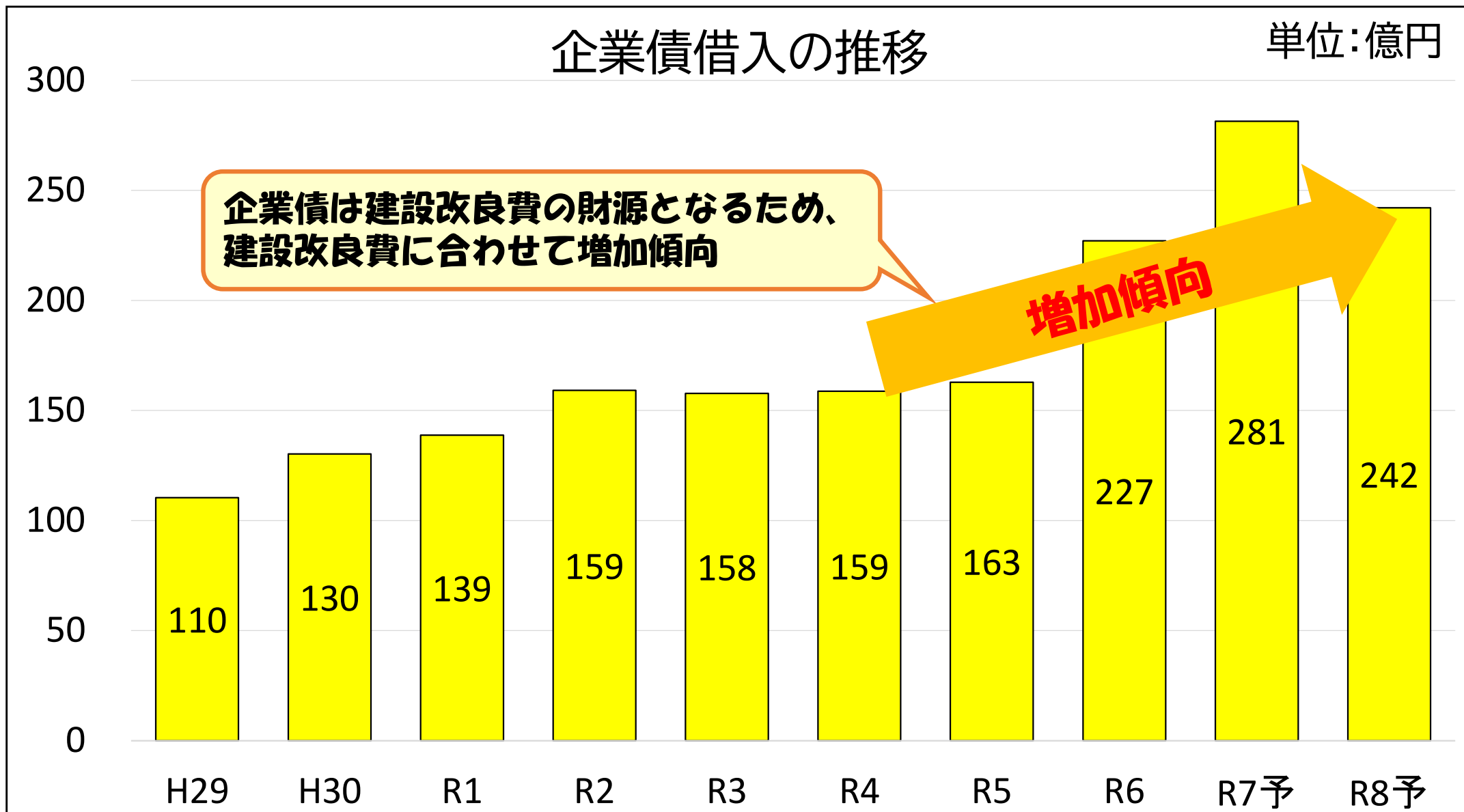
例) 下水道管の整備等に500万円の費用がかかった場合 ※簡略化のため耐用年数5年と仮定します。



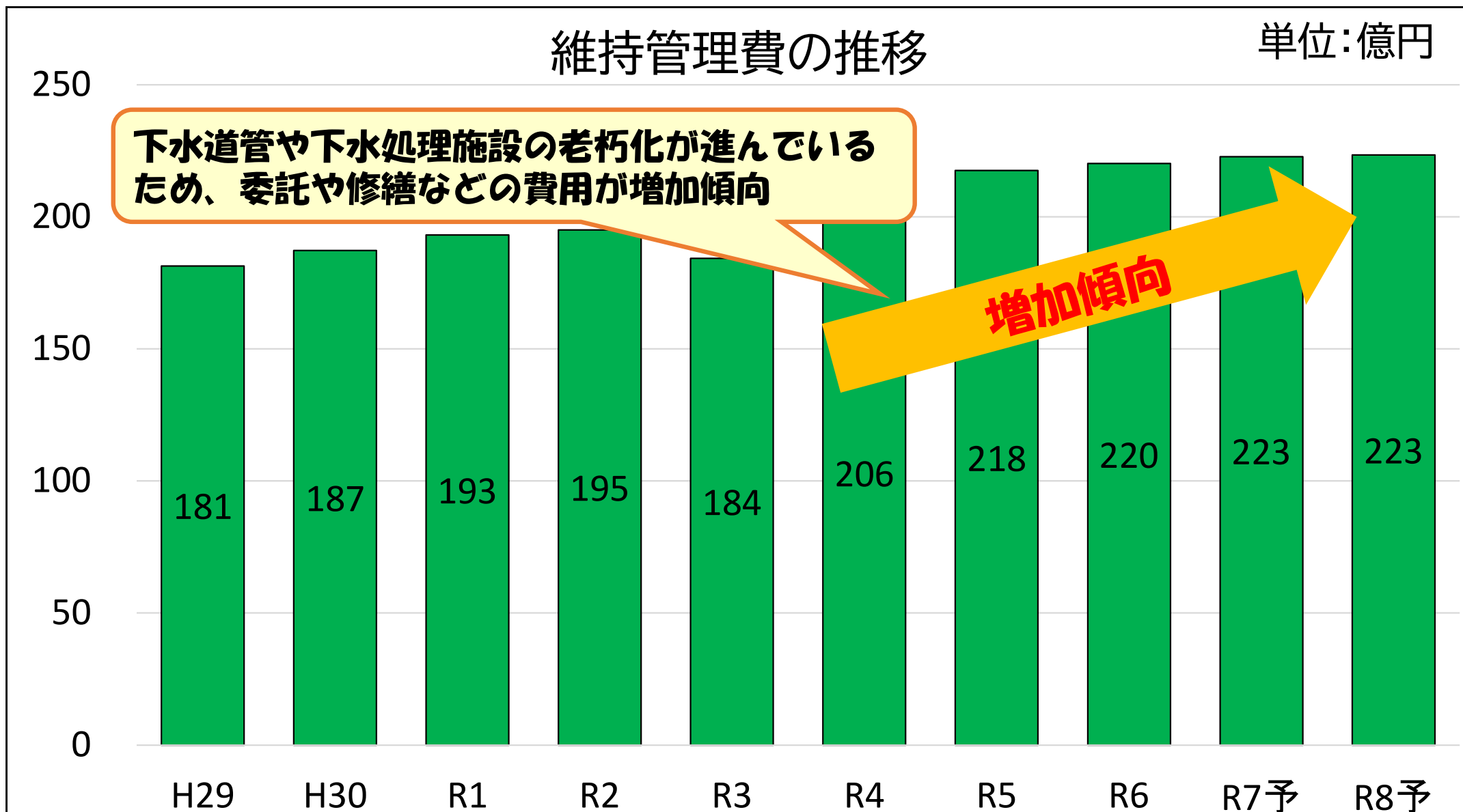
3 下水道事業会計の現状



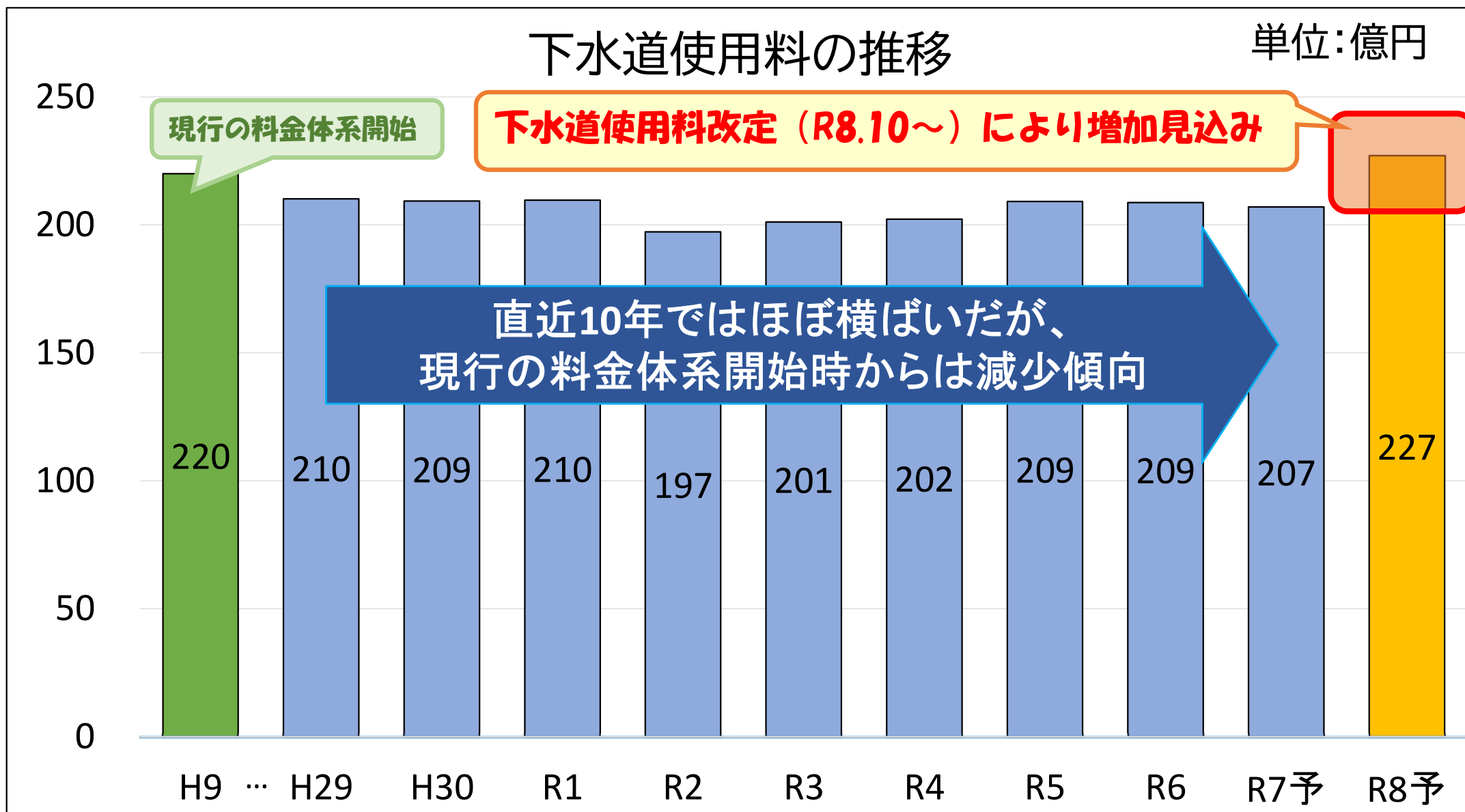
3 下水道事業会計の現状



3 下水道事業会計の現状



3 下水道事業会計の現状



4 下水道事業会計の今後

【支出の増加】

- ・昭和40～50年代に行った集中的な施設整備に伴う老朽化対応のため、今後も建設改良費は増加が見込まれる。
また、財源の企業債借入(借金)が増加することで、将来的な支払利息の増加が見込まれる。
- ・物価高騰等の影響により維持管理費の増加が見込まれる。



【収入の減少・悪化】

- ・主な財源である下水道使用料は減少傾向。
札幌市は人口減少局面にあり、
今後はさらなる減少が見込まれる。
- ・財務状況の悪化:
 - 令和4年度以降:経費回収率が100%を下回る
 - 令和5年度:14年ぶりに赤字(経常損失)
 - 令和9年度:資金不足に陥る見込み



厳しい経営状況を踏まえ、令和8年10月から下水道使用料を改定し、赤字からの改善を図ります。(平成9年以来、約30年ぶりの改定)

※改定に関する詳細は、下水道使用料改定のお知らせ(札幌市公式ホームページ)をご確認ください。
掲載URL: <https://www.city.sapporo.jp/gesui/kaitei2026.html>

引き続き、コストの縮減に努めるほか、事業内容や財政収支の検証を継続的に行い、使用料の改定の必要性や時期を検討していきます。

